

平成12年度  
農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

清武町・県営農地保全整備事業船引地区  
(上猪ノ原遺跡)

高城町・県営農地保全整備事業細井地区  
(雁寺第3遺跡)

都城市・農用地総合整備事業  
(野添・安久前畑・女橋遺跡)

平成13年3月

宮崎県教育委員会

平成12年度  
農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

清武町・県営農地保全整備事業船引地区  
(上猪ノ原遺跡)

高城町・県営農地保全整備事業細井地区  
(雁寺第3遺跡)

都城市・農用地総合整備事業  
(野添・安久前畑・女橋遺跡)

平成13年3月

宮崎県教育委員会

# 序

宮崎県教育委員会では、埋蔵文化財の保護を図るため開発計画のある地域の発掘調査および分布調査を行っております。

平成12年度は県内各地で各種の農業基盤整備事業が実施され、事業に伴う発掘調査等を行っております。

本報告書は、平成12年度に県内で行った確認、試掘調査のうち5地区の概要を報告するものであります。

本報告書が、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整の資料として活用され、また、埋蔵文化財に対する認識と理解に役立つことを期待いたします。なお、調査に際しましてご協力いただいた関係機関に対し、心から感謝いたします。

平成13年3月

宮崎県教育委員会

教育長 笹山竹義

## 例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が平成12年度に国庫補助金を受けて実施した、農業基盤整備事業に伴う発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、県文化課主査谷口武範、同主任主事飯田博之、同主任主事松林豊樹が担当した。調査にあたっては、関係市町村教育委員会及び同農政部局、各農林振興局、各土地改良区の協力を得た。
3. 本書の執筆は、各担当者が行った。
4. 出土遺物は、関係市町村教育委員会および県埋蔵文化財センターで保管している。
5. 本書に使用した地図は国土地理院発行の5万分の1図を使用した。

## 目 次

1. はじめに .....	1
2. 調査の結果	
県営農地保全整備事業船引地区（上猪ノ原遺跡） .....	1
県営農地保全整備事業細井地区（雁寺第3遺跡） .....	6
農用地保全整備事業（野添遺跡） .....	11
〃（安久前畑遺跡） .....	14
〃（女橋遺跡） .....	17
表 平成12年度 試掘・確認調査一覧 .....	18



# 1. はじめに

県内での農業基盤整備事業は多くの事業が各地で展開されている。

文化課では、開発事業と埋蔵文化財保護との調整をはかるため平成13年度に各種の農業基盤整備実施予定地の分布調査および試掘・確認調査を実施した。

本報告では、平成12年度に実施した試掘、確認調査の5遺跡について報告するものである。

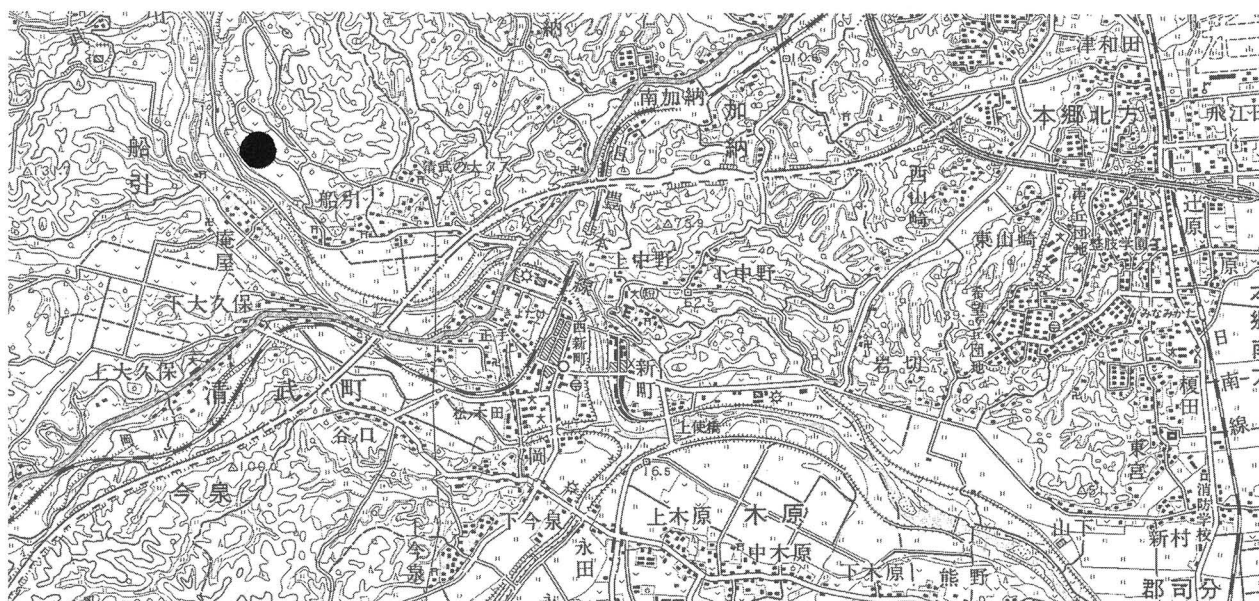
## 2. 船引地区遺跡（上猪ノ原遺跡）

船引地区遺跡は宮崎郡清武町大字船引に所在する。この地区は県営特殊農地保全整備事業船引地区が実施されており、事業に伴う発掘調査は、平成5年度から継続して行っている。今年度の試掘調査は、13年度事業実施予定地区を平成12年8月10日～9月2日、11月8日から11月10日までの2回実施した。また調査が実施できなかった部分については、13年3月に実施する予定である。

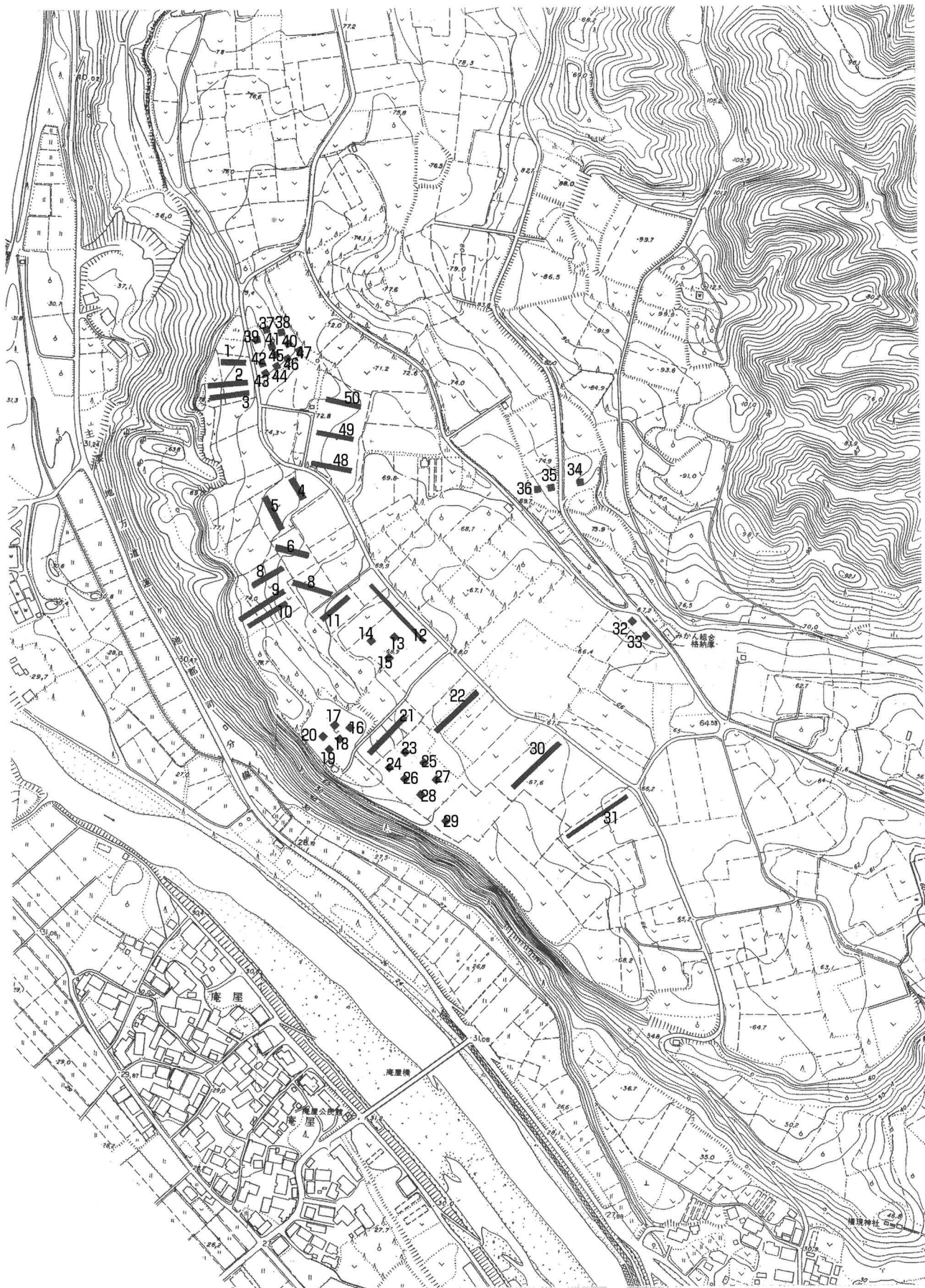
基本土層は以下のとおりである。

- I層 現耕作土。
- II層 黒色土層。軟らかくいわゆるクロボクとよばれる層である。
- III層 黄橙色砂質土層。いわゆるアカホヤ火山灰層である。
- IV層 黒褐色土層いわゆるカシワバンとよばれる層。やや粘性がある。
- V層 褐色土層。やや粘性がある。
- VI層 黒褐色土層。小林軽石がわずかに混入する。
- VII層 褐色土層。固くしまった層で、黒褐色のブロックを含み小林軽石が混入している。

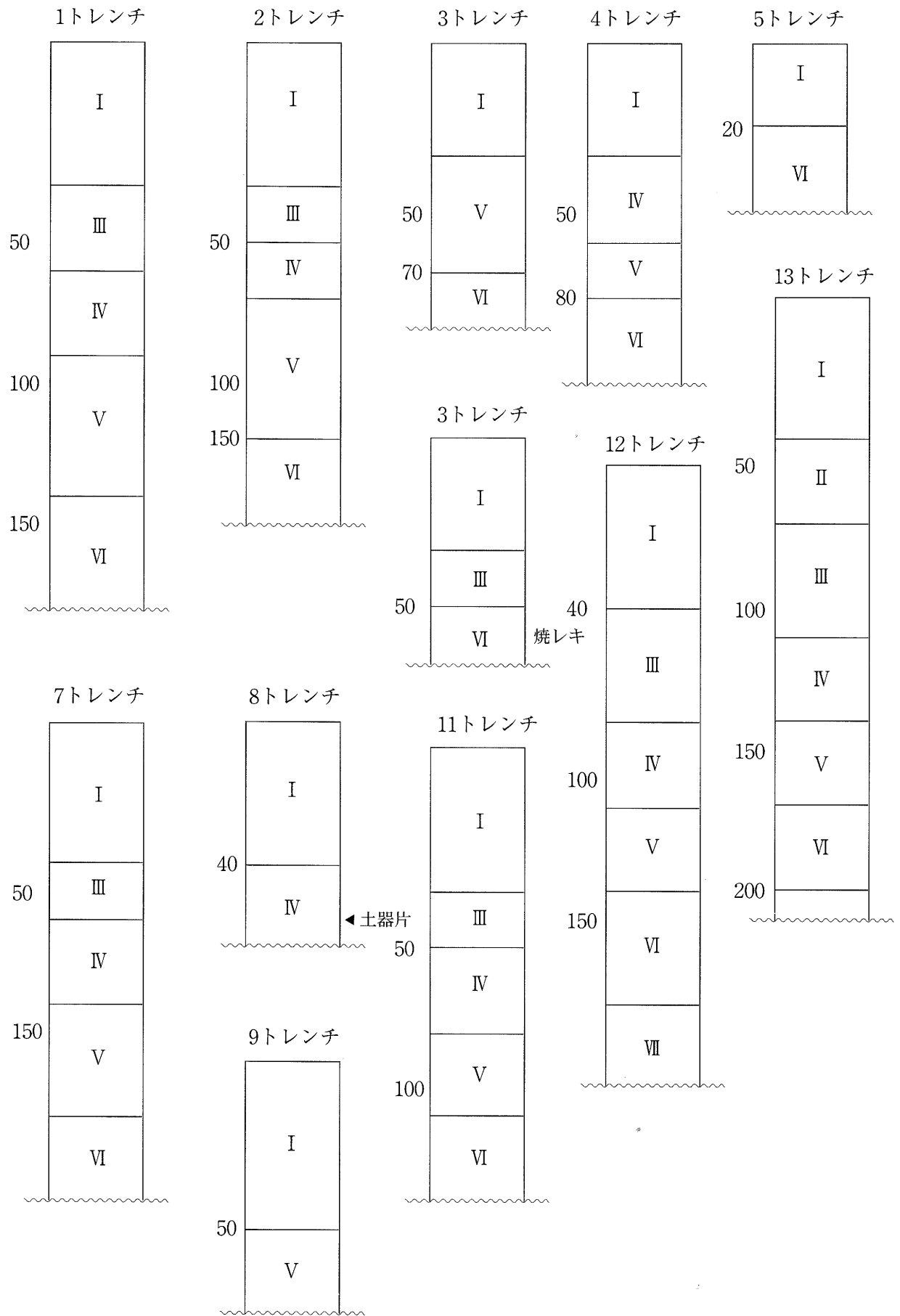
調査は、小林軽石を含むVII層までを行った。トレンチ設定箇所は、船引地区の台地南部を中心に行っているが、耕作や土取り等の影響でシラスが確認されている部分もある。遺物は第IV層とV層から出土しているが、全体的には密度は薄い感じである。9トレンチではシラス面まで掘りこまれた集石遺構が検出された。

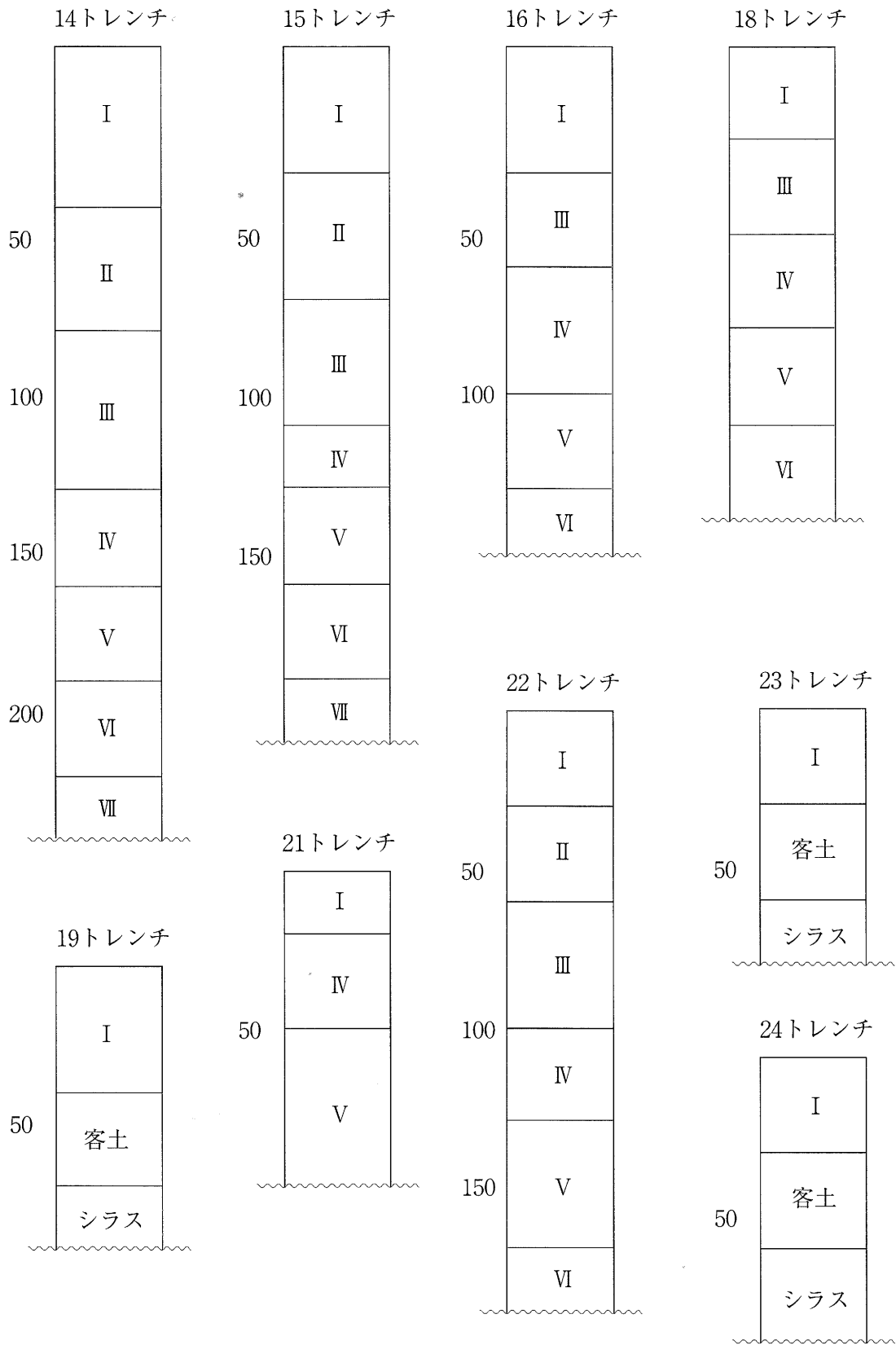


遺跡位置図

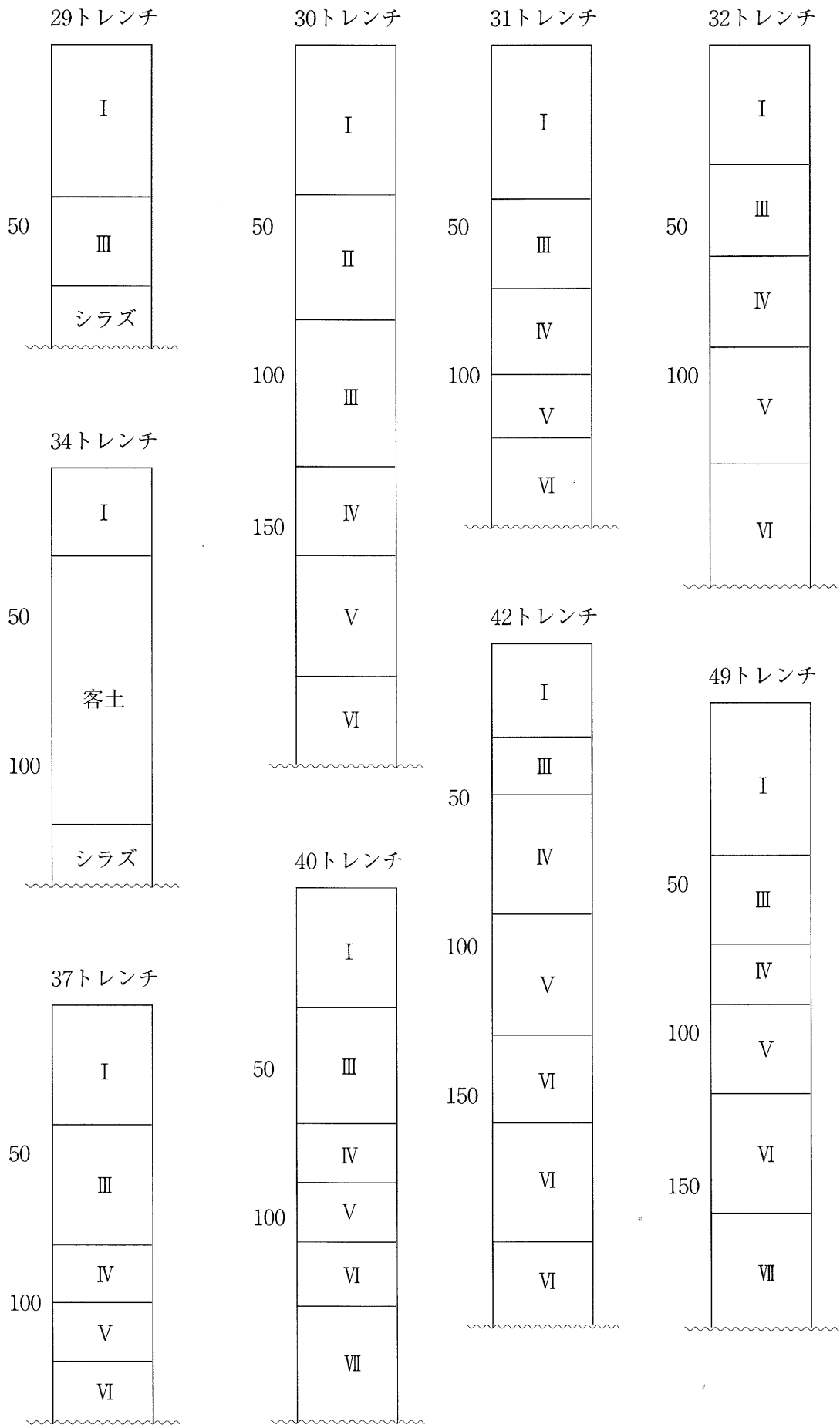


トレンチ配置図









## 細井地区遺跡（雁寺第3遺跡）

雁寺第3遺跡は、県営特殊農地保全整備事業細井地区が実施されている高城町大字有水字雁寺に所在する。平成4年度から本事業のため上原第1・第2・第3遺跡、山城第1遺跡が調査されている。

今回の確認調査は、平成13年度に実施される事業予定地を平成13年1月31日から2月3日までの期間に行った。当遺跡は、過去に転地返し等の掘削を受けている部分があり、調査対象地は遺跡全体からは大きく縮小される範囲である。

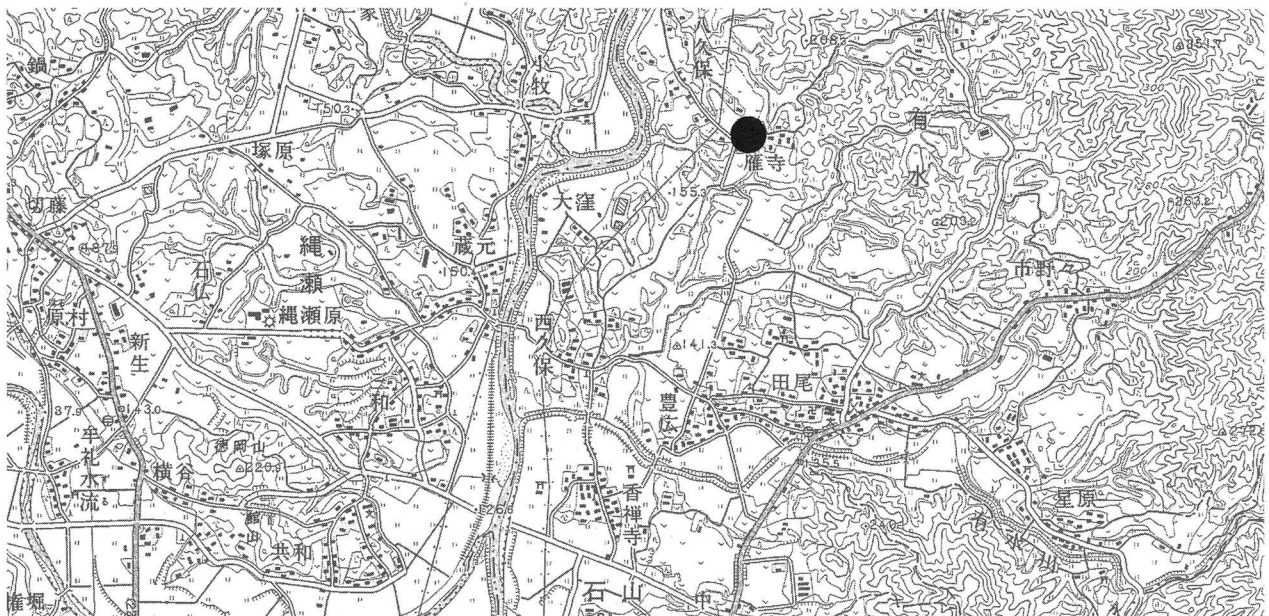
現在12年度事業地で調査を実施している山城第1遺跡では、縄文および古墳時代の住居跡群が検出されており、今回の試掘でも同時期の集落跡が確認される可能性があった。

確認調査は、重機により長いトレンチを設定し、幅約2m、長さ25～35mの規模で御池ボラ面での遺構の検出を実施した。また、重機で掘削した以外の部分も人力によるトレンチを設定した。

土層は試掘トレンチを設定した部分のほとんどで御池ボラが確認された。標準土層は以下のとおりである。

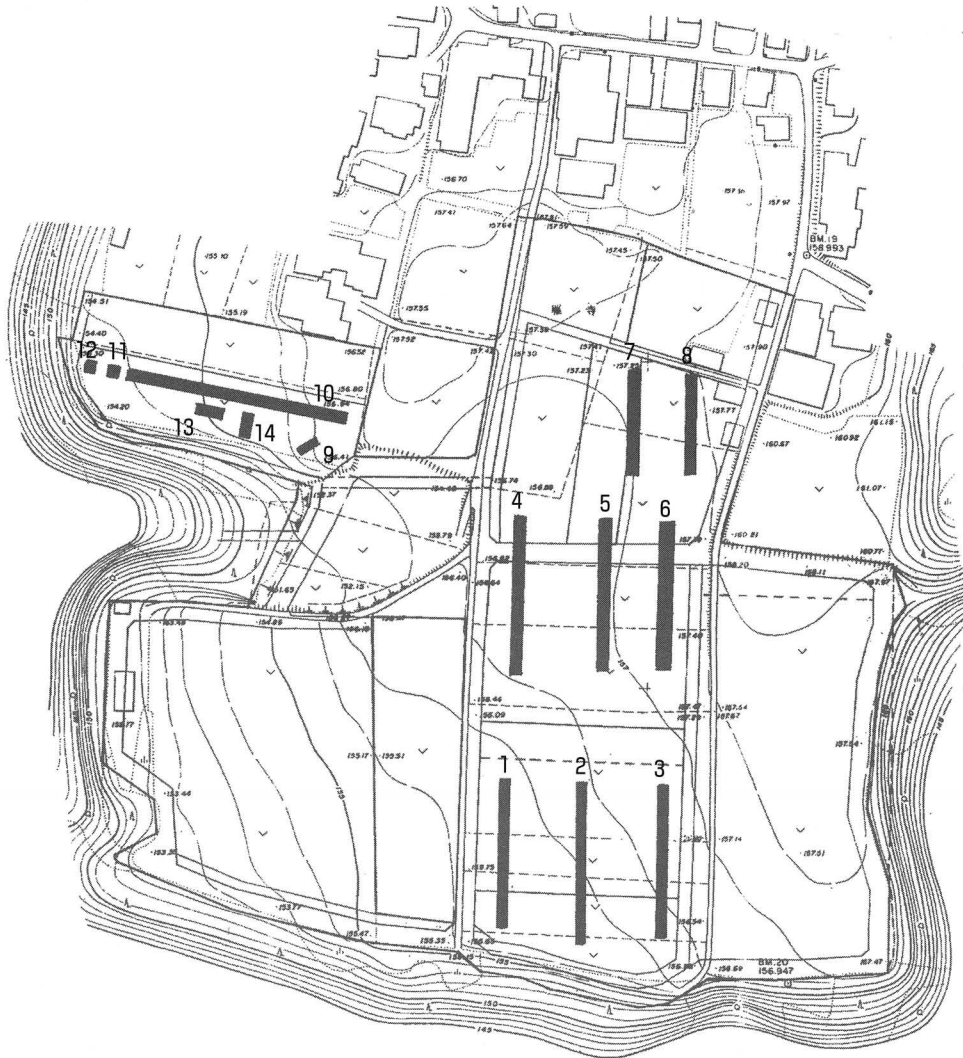
- I層 現耕作土で、高原スコリアや御池ボラ等が混在している部分もある。
- II層 黒色土で高原スコリアが多量に混入している。
- III層 高原スコリア層
- IV層 黒色土層で高原スコリアが混入している。
- V層 褐色土層で御池ボラが少量混入している。
- VI層 黒褐色土層で、御池ボラがV層に比べ多く混入している。
- VII層 御池ボラ層
- VIII層 黒色土層
- IX層 褐色土層
- X層 アカホヤ火山灰層
- XI層 黒褐色土層

調査の結果、IV層およびV層から土器片が出土したが、出土量は少ない。また遺構はピットが検出されたが、密度は薄く住居跡等の検出はなかった。

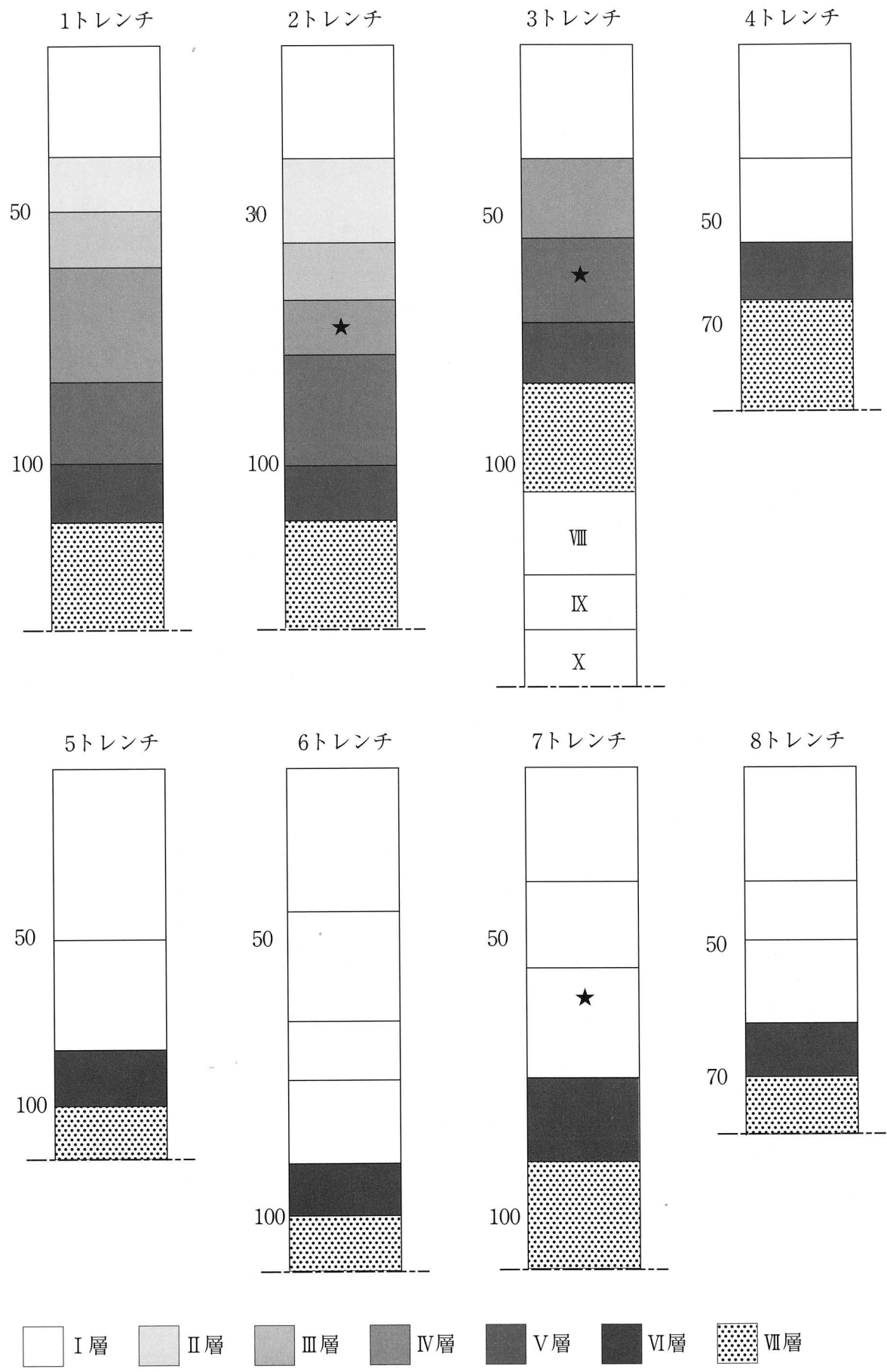


遺跡位置図

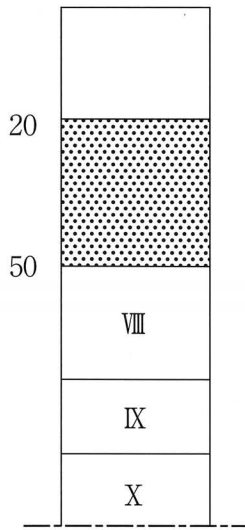
高城町  
有水



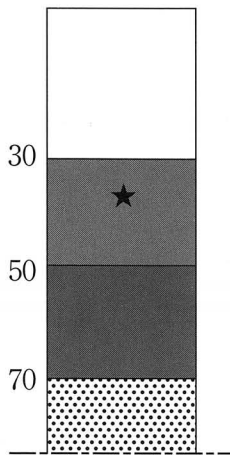
トレンチ配置図



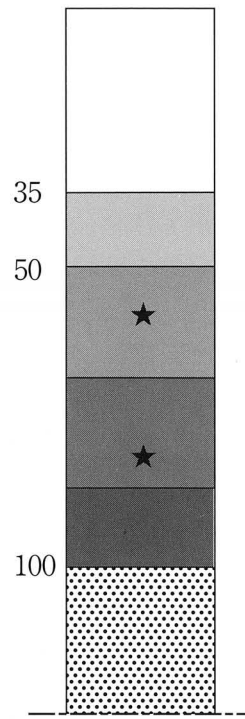
9トレンチ



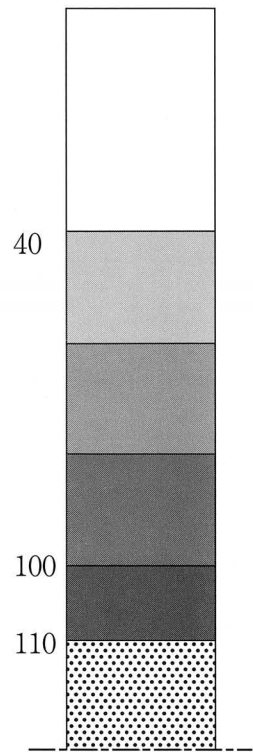
10トレンチ



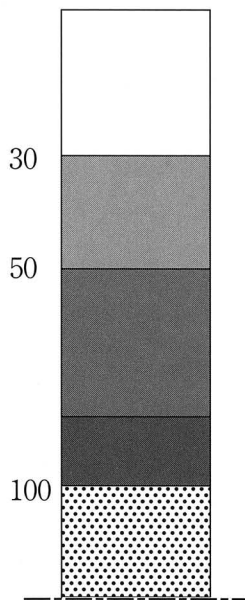
11トレンチ



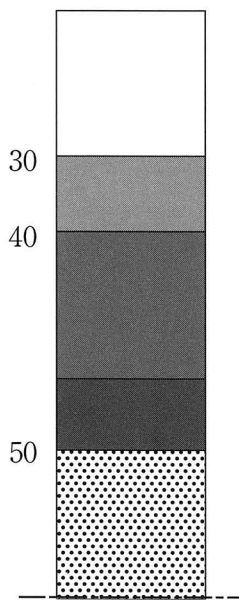
12トレンチ



13トレンチ



14トレンチ



★～土器片出土位置



## 農用地総合整備事業

緑資源公団（旧農用地整備公団）において、農用地整備事業として農業生産性の向上・農業経営の安定を図るほ場整備事業（204ha）や農産物流通の迅速化を目指した広域農道（総延長19.1km）建設が計画された。平成5年11月に事業予定地内の文化財の所在の有無についての県文化課へ照会があり、遺跡数33箇所、試掘調査の必要な29箇所を回答した。以後、県文化課は、公団と継続して事業と発掘調査の円滑な実施について協議を行っている。

今年度は、広域農道建設予定地5箇所について試掘・確認調査を実施した。実施した地区は下記のとおりである。

	調査箇所	住所	調査期日
1	安久前畑遺跡及び隣接地	都城市安久町	5月10日～12日
2	東谷遺跡	都城市梅北町	5月30日
3	野添遺跡	都城市安久町	10月30～31日
4	女橋遺跡	都城市今町	12月6日～7日
5	上牧遺跡及び隣接地	都城市関之尾町	12月7日
6	安久松ヶ迫第2遺跡	都城市安久町	3月15・16日



遺跡位置図

# 1 野添遺跡

## (1) 遺跡の立地

遺跡は、安久川の右岸に位置し、遺跡詳細分布調査報告書では縄文・平安・中世の遺物散布地として記載され、遺跡内には建立寺の名前もみえる。調査対象地は、標高200～195m、東側に広がる丘陵裾部から西に舌状に延びた台地の南の谷部にあたり、いわゆる小規模な扇状地形を呈している。

## (2) 基本層序

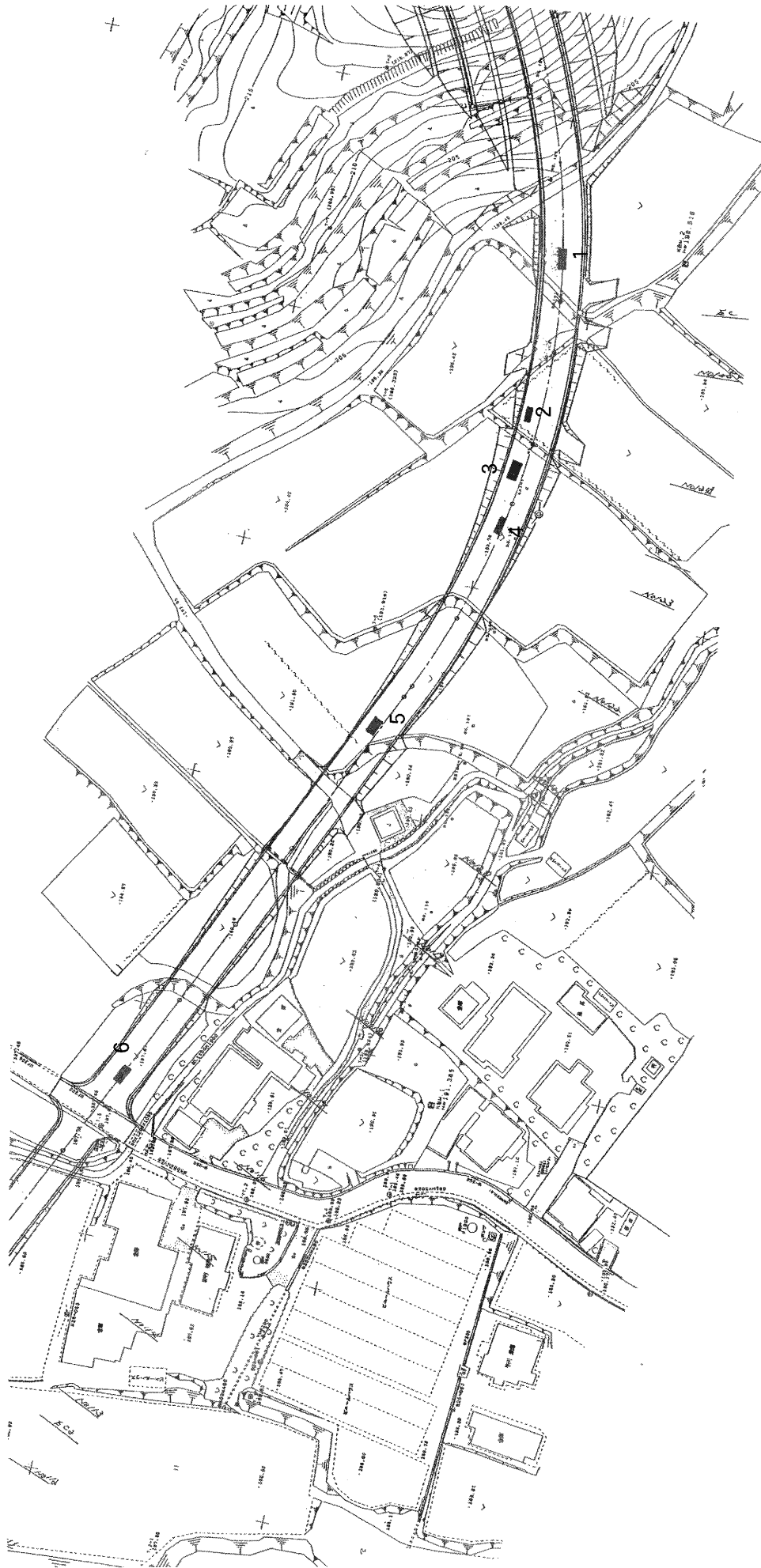
第Ⅰ層	表土	45～50cm	
第Ⅱ層	暗褐色土（御池ボラ少量混）	15～20cm	
第Ⅲ層	黒褐色土	5～10cm	（一部に残存）
第Ⅳ層	御池ボラ	30～35cm	
第Ⅴ層	明褐色土	65cm以上	

## (3) 調査の概要

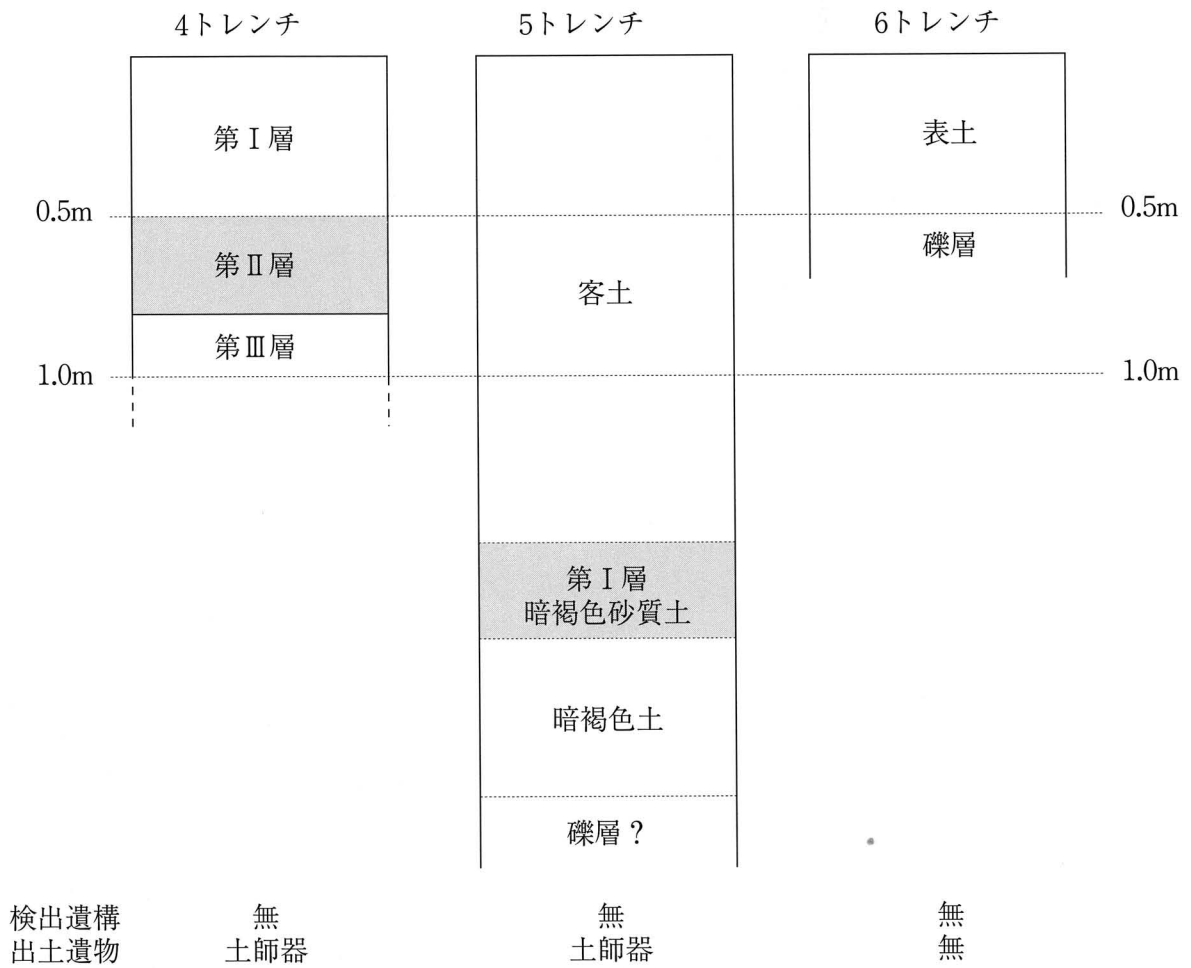
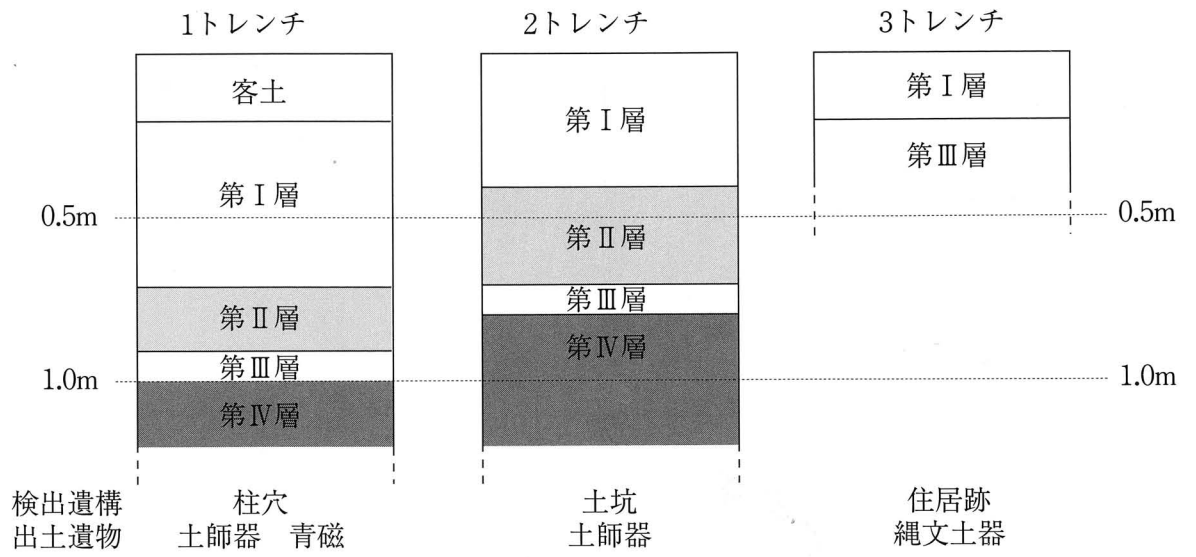
地形にあわせて6本のトレンチを設定し調査を実施した。基本層序は下記のとおりである。第Ⅱ層が遺物包含層で、縄文時代後期の土器や中世の土師器や陶磁器類が出土した。なお、第6トレンチでは表土下すぐに自然礫層が検出され、安久川の氾濫原と推定され調査対象地から除外できる。また、第Ⅳ層である御池ボラ層上面で第1トレンチや第3トレンチから住居跡や柱穴などの遺構が確認された。これらのことから、第Ⅱ層が残存する第1トレンチから第5トレンチまでの範囲（黄色部分）が本調査対象地と判断される。



野添遺跡・安久前畑遺跡周辺地形図及び予定路線



野添遺跡トレンチ配置図



土層の状況

## 2 安久前畑遺跡

### (1) 遺跡の立地

野添遺跡から続く農業用道路が、前述した野添遺跡から蛇行しながらその東側の舌状台地上とその下の水田部及び丘陵端部に沿って計画された。事業実施区内には安久前畑遺跡が含まれるほか、周辺地域において正応寺や西生寺などの多くの寺院が建立されていることから経筒など宗教色の強い遺構・遺物が検出される可能性もあることから、遺跡以外の丘陵地も試掘対象地として実施した。

### (2) 基本層序

#### 水田部（第1・2トレンチ）

第Ⅰ層	表土	45～50cm	
第Ⅱ層	御池ボラ	10～15cm	
第Ⅲ層	明褐色土	20cm以上	小レキ混じり

#### 舌状丘陵部（第3～9トレンチ）

第Ⅰ層	表土	25～35cm	
第Ⅱ層	御池ボラ	15～20cm	
第Ⅲ層	明褐色土	12～20cm	御池ボラ少量混 固くしまる
第Ⅳ層	明褐色土	30～80cm	硬質のブロックや褐色土混入 2層に分離可能
第Ⅴ層	暗褐色土	25～30cm	固くしまり、炭化物少量混入 粘質あり
第Ⅵ層	淡黄褐色土	30cm以上	

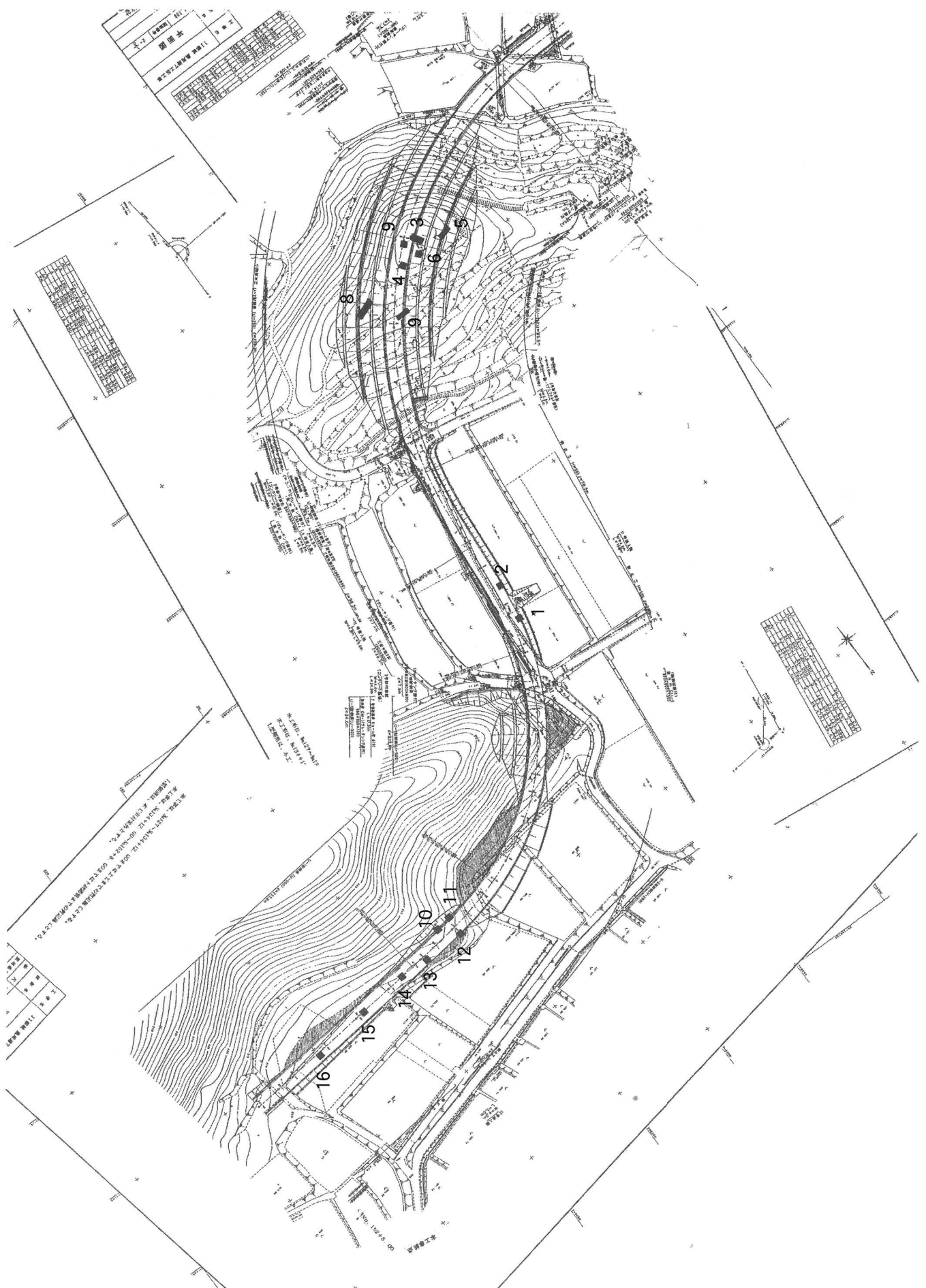
#### 丘陵端部（第10～16トレンチ）

第Ⅰ層	表土	20～80cm	
第Ⅱ層	御池ボラ	10～25cm	
第Ⅲ層	明褐色土	12～20cm	御池ボラ少量混 固くしまる

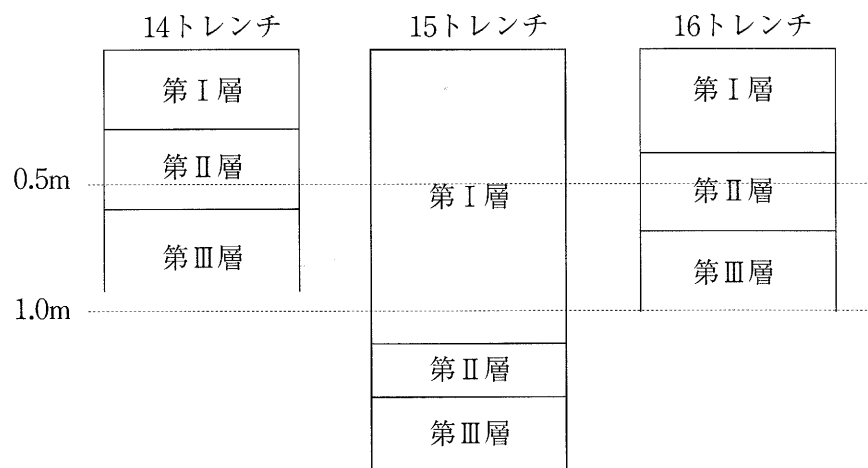
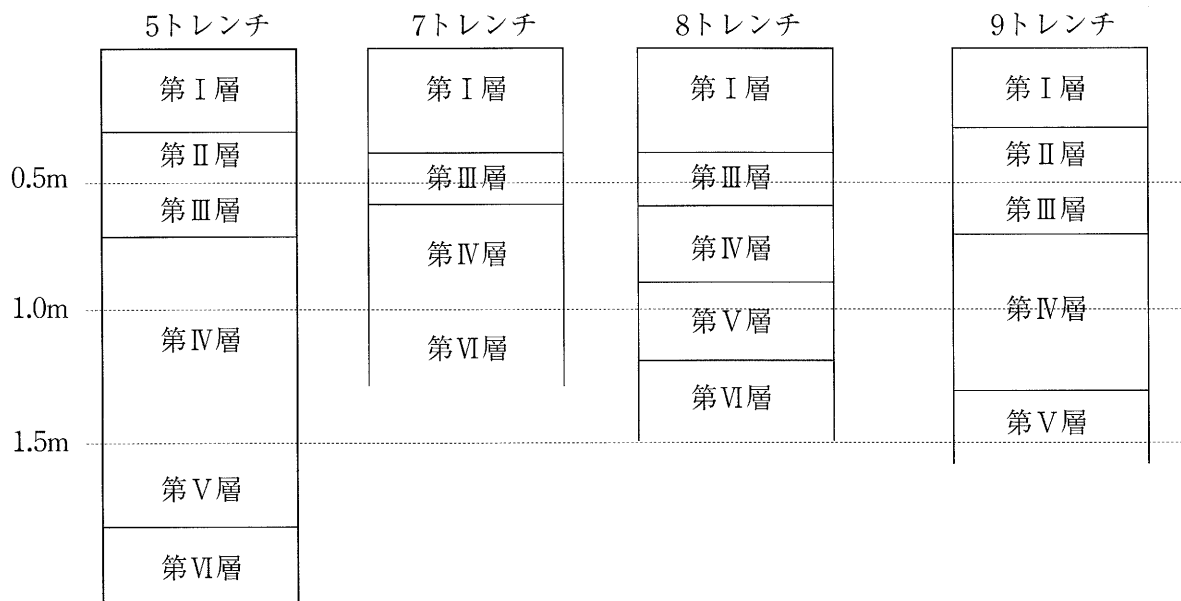
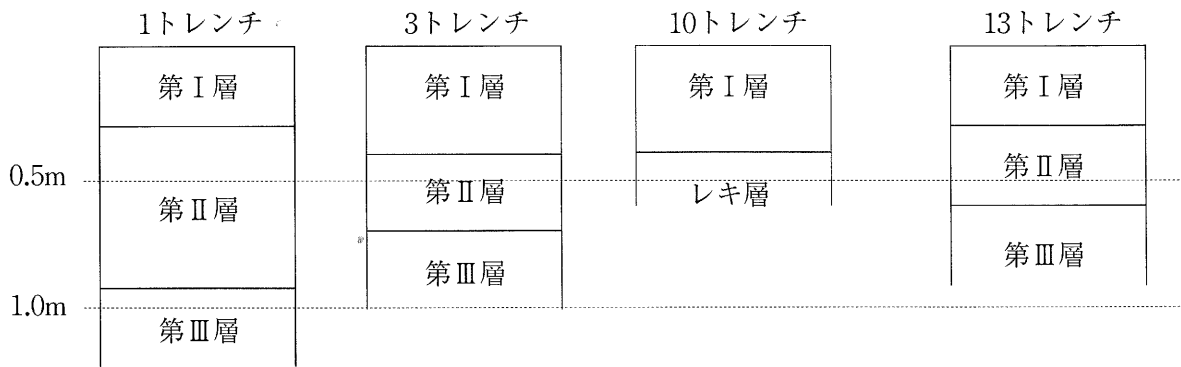
### (3) 調査の概要

地形にあわせて安久前畑遺跡の水田部に2本、丘陵部に7本、丘陵端部に7本の合計16本のトレンチを設定し調査を実施した。各地区の基本層序は上記のとおりで、全体に後世の改変を受け遺物包含層も残存せず、表土中から土師器片や青磁片が少量出土したのみで、遺構も検出されなかった。安久前畑遺跡である水田部では、昭和期の区画整理によって造成され御池ボラなど通有な堆積土層は今回確認できなかった。





安久前畑遺跡トレンチ配置図



土層の状況

### 3 女橋遺跡

#### (1) 遺跡の立地

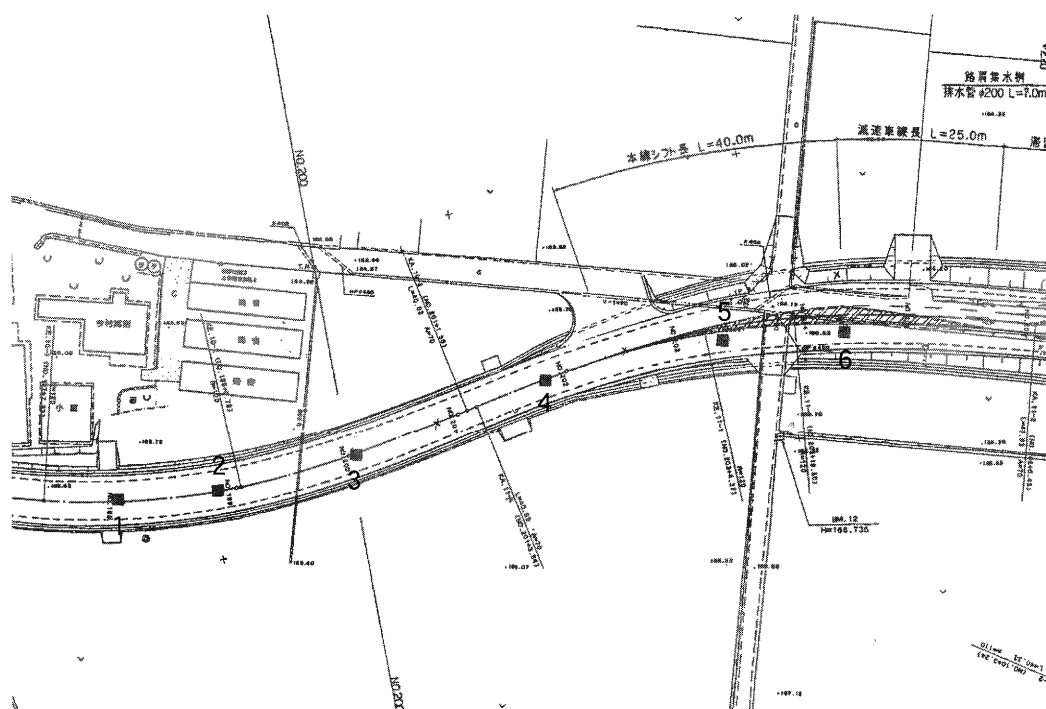
遺跡は、大淀川の右岸に広く展開する標高約175mの台地上に位置する。遺跡詳細分布調査報告書では縄文～近世の遺物散布地として周知され、調査対象地の大淀川に面する低地に立地する鴉尾遺跡では、中世の水田跡や白磁・青磁・土師器などが検出されている。

#### (2) 基本層序

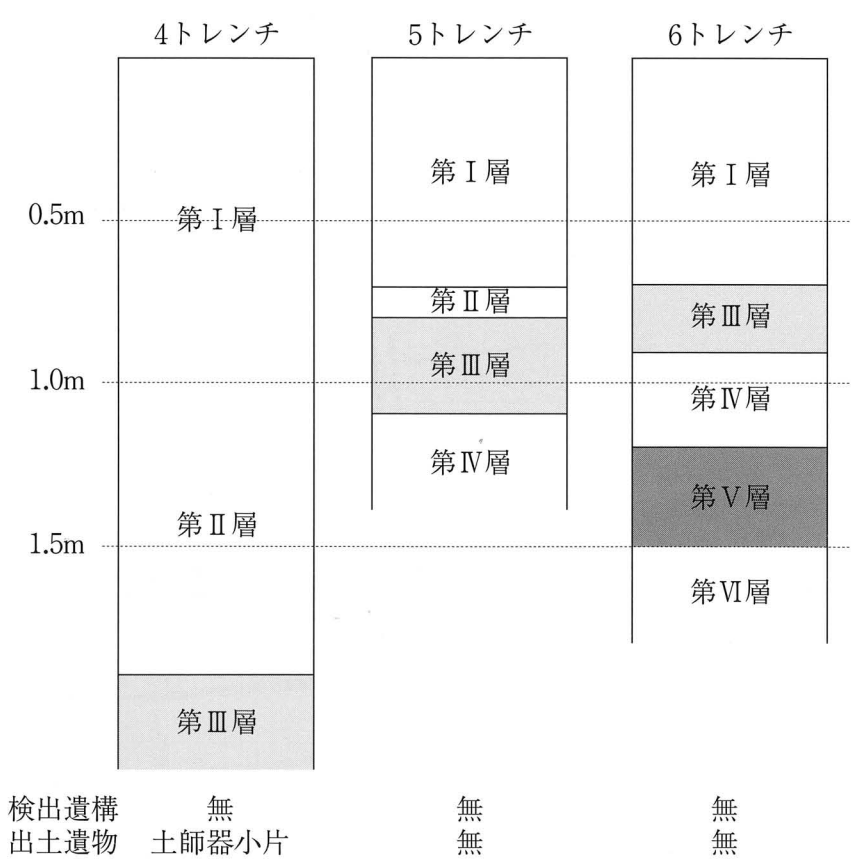
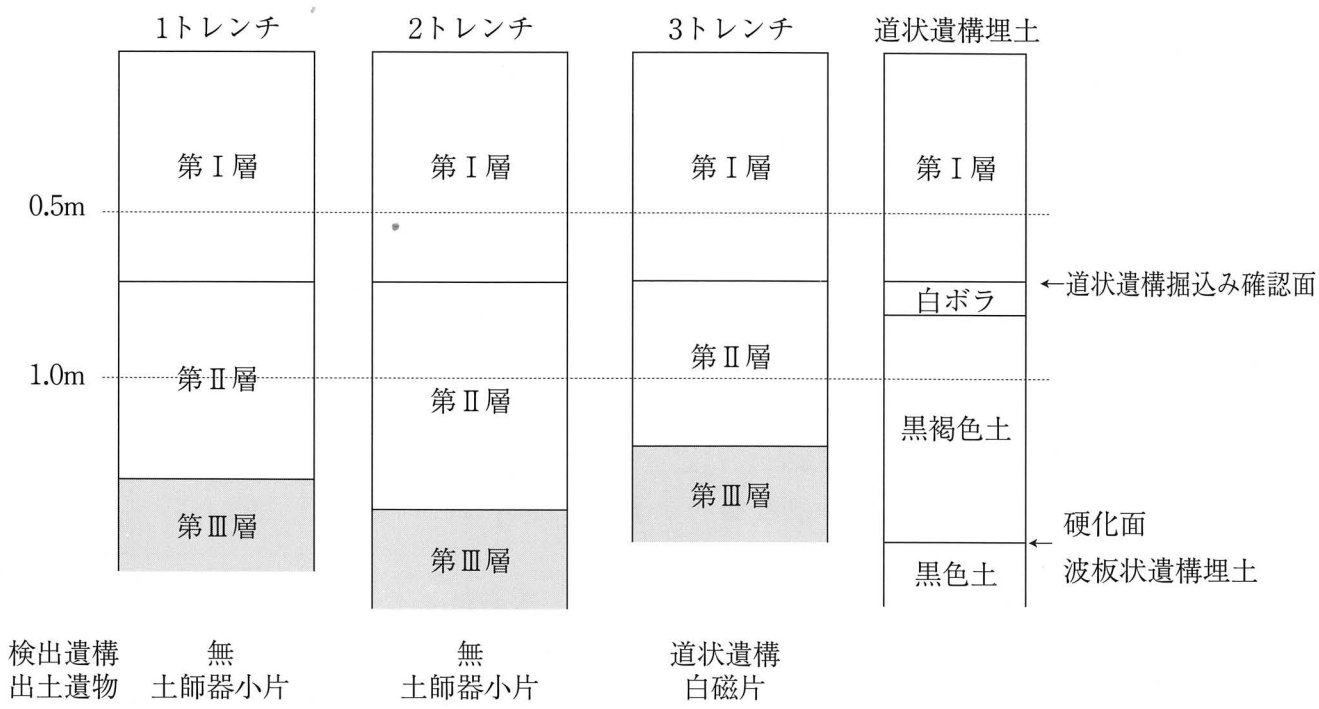
第Ⅰ層	表土	60～70cm	
第Ⅱ層	黒褐色土	30～90cm	後世の造成のため箇所によって厚さに違いあり
第Ⅲ層	御池ボラ	20～25cm	
第Ⅳ層	黒褐色土	30～35cm	きめ細かで固くしまる
第Ⅴ層	アカホヤ	30～35cm	
第Ⅵ層	黒色土	15cm以上	非常に固い

#### (3) 調査の概要

地形にあわせて6本のトレンチを設定し調査を実施した。基本層序は上記のとおりであったが、道状遺構の埋土から第Ⅱ層上に白ボラが堆積していたと推定される。さらに調査対象地は国道10号の陸橋建設や畑の造成によって大きく改変を受け、実際は南から延びてきた丘陵端部にあたり、第3トレンチから第4トレンチ周辺に谷部が形成されていたと推定される。市内遺跡の状況から第Ⅱ層が通常遺物包含層はとして捉えられるが、今回の調査では遺物は出土していない。唯一、道状遺構の埋土上層から玉縁口縁の白磁片が1点出土した。また、遺構は第3トレンチで道状遺構が検出されたのみで、他のトレンチでは土坑や柱穴は確認されなかった。この調査以前に、女橋遺跡の西に位置する東谷遺跡の確認調査でも遺構・遺物が検出されていないことから、この台地上の遺跡の遺構密度は非常に薄いと想定される。



女橋遺跡トレンチ配置図



土層の状況

表 試掘・確認調査一覧

No	事業地区名	遺跡名所在地	調査期間	調査担当	備考
1	農用地総合整備事業	安久前畑 都城市安久町	平成12年5月10日 ～12日	谷口武範	
2	農用地総合整備事業	東谷 都城市梅北町	平成12年5月30日	谷口武範	
3	元野地区	黒草第2 田野町字黒草甲12349外	平成12年7月21日 ～7月24日	飯田博之	県営農地保全
4	祇園原地区	西都市大字右松字祇 園ノ上	平成12年8月3日	飯田博之	県営農地保全
5	船引地区 (第1次)	上猪ノ原 清武町大字船引	平成12年8月10日 ～9月1日	飯田博之	県営農地保全
6	農用地総合整備事業	野添 都城市安久町	平成12年10月30日 ～10月31日	谷口武範	
7	船引地区 (第2次)	上猪ノ原 清武町大字船引	平成12年11月6日 ～11月10日	飯田博之	県営農地保全
8	農用地総合整備事業	女橋 都城市今町	平成12年12月6日 ～12月7日	谷口武範	
9	農用地総合整備事業	上牧 都城市関之尾町	平成12年12月7日	谷口武範	
10	ほ場整備	高原町大字西麓	平成12年12月16日 ～12月26日	飯田博之	
11	細井地区	雁寺第3 高城町大字有水	平成13年1月31日 ～2月3日	飯田博之	県営農地保全
12	横市地区	都城市横市町	平成13年1月31日 ～2月28日	谷口武範	県営ほ場整備
13	松山地区	田野町松山	平成13年1月24日	飯田博之	県営ほ場整備
14	鹿村野地区	田野町鹿村野	平成13年2月9日 ～2月14日	飯田博之	県営ほ場整備
15	船引地区 (第3次)	上猪ノ原 清武町大字船引	平成13年3月6日 ～3月13日	飯田博文	県営ほ場整備
16	農用地総合整備事業	安久松ヶ迫第2 都城市安久町	平成13年3月15日 ～3月16日	谷口武範	
17	農用水利事業	山田町	平成13年3月21日 ～3月23日	谷口武範	ファームポンド



**平成12年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書**

平成13年 3 月30日

編集：宮崎県文化課 宮崎市橘通東1-9-10  
0985(26)7251

発行：宮崎県教育委員会

印刷：(株)印刷センタークロダ  
宮崎市大橋 2 丁目175番地  
0985(24)4351

